

# グリーンアスパラガス

担当者 技能研究員 藤井 健

試験課題名	立茎栽培後の影響及び回避対策試験
目的	近年におけるアスパラガスの低収化を改善するため増収技術の検討と、2年間立茎栽培利用した後の茎数と収量への影響を確認する。
期待される成果	増収技術が確立されることにより、収益性の改善が図られる。
連携機関	上川農業改良普及センター士別支所 JA北ひびき和寒基幹支所 和寒町蔬菜組合連合会アスパラ部会

## 1 供試品種・資材

品種

H L A - 7 ( ガインリム )      グリーンフット ( カネコ種苗 )

## 2 耕種概要

土 質 ~ 埴壤土

播 種 日 ~ 平成14年2月7日      鉢 上 げ 日 ~ 平成14年3月18日

定 植 日 ~ 平成14年6月1日      収 穫 期 間 ~ 平成18年5月17日~6月15日

栽 植 密 度 ~ 畦幅1.8m×株間0.27m      2,057株/10a当たり

### (1)平成14年度土壌改良資材 (10a当たり)

珪カル                      180kg      苦土重焼燐                      500kg  
重過燐酸石灰              40kg

### (2)施肥管理の経過

平成14年			平成15年			平成16年			平成17年		
N	P	K	N	P	K	N	P	K	N	P	K
22.0	27.0	11.0	29.6	8.2	15.2	30.0	7.7	9.2	23.6	13.8	18.4
バーク堆肥 30t			バーク堆肥 3t			バーク堆肥 3t			バーク堆肥 3t		

## 3 土壌診断結果と施肥量

### (1)土壌診断結果

(mg/100g)

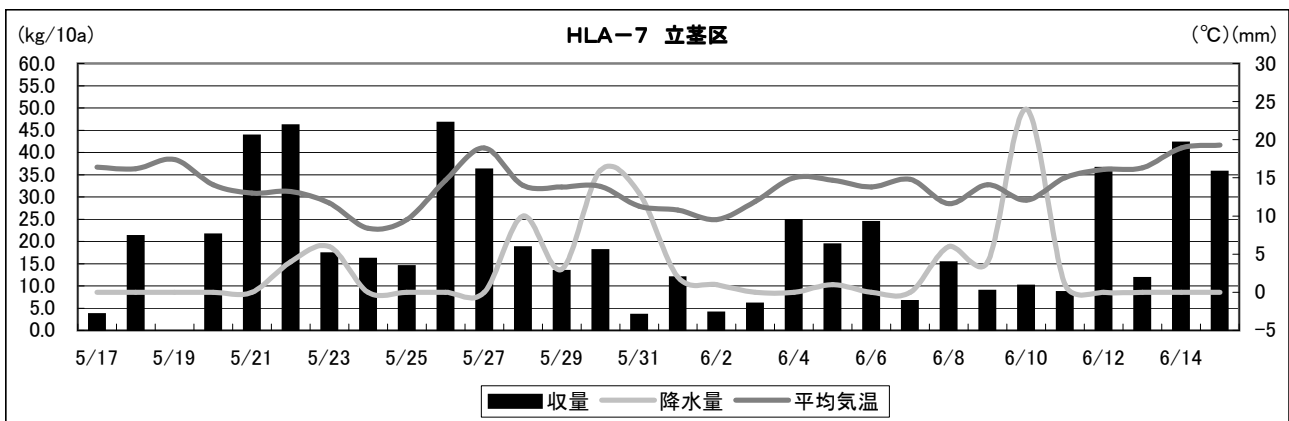
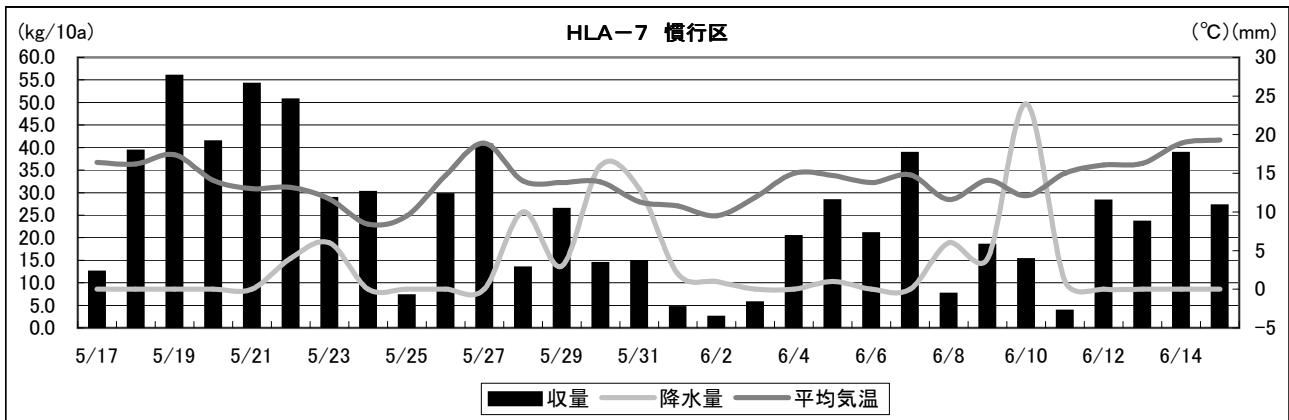
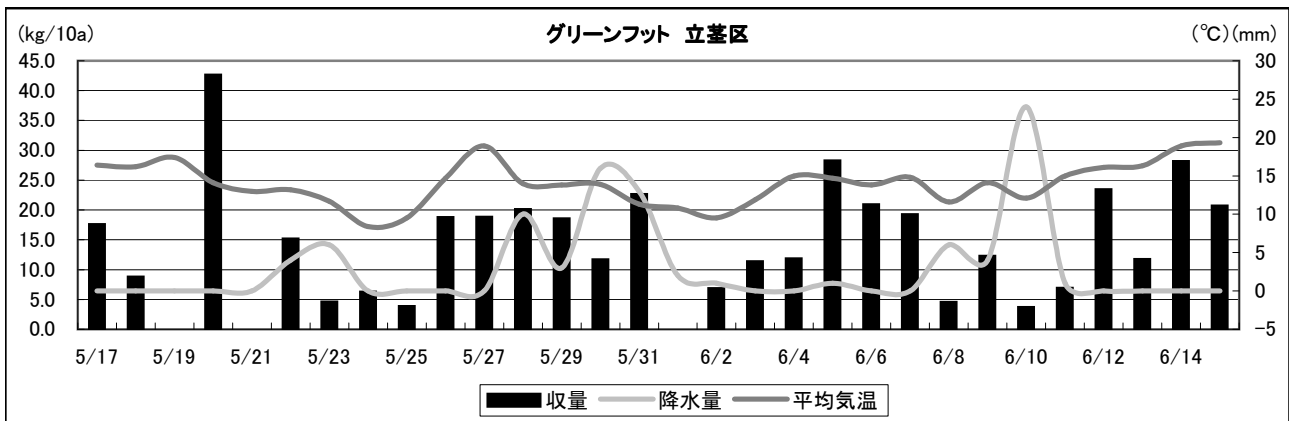
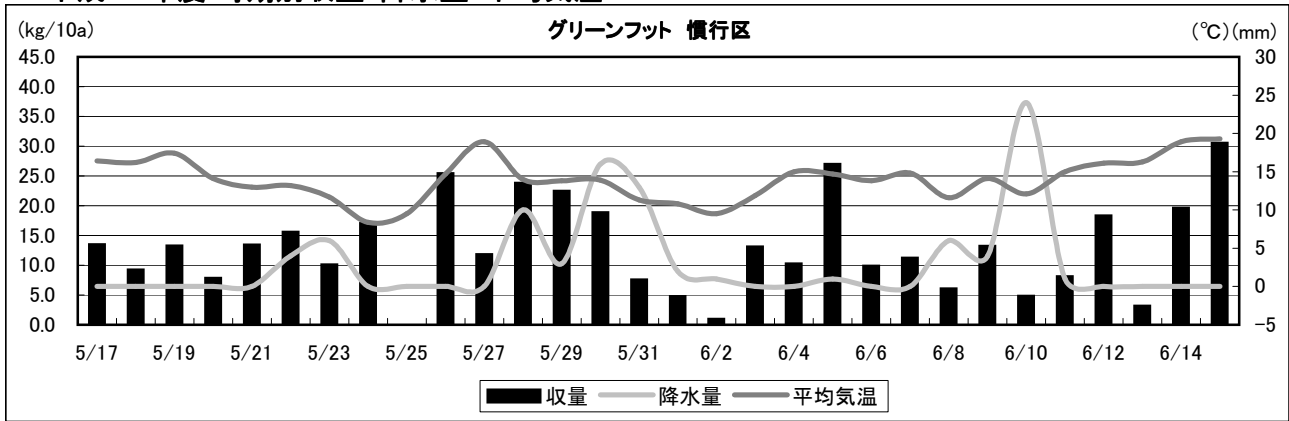
pH	EC	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	K <sub>2</sub> O	MgO	CaO	熱水抽出N
6.1	0.208	69.0	67.2	27.2	268	13.4

### (2)平成18年施肥内容

(kg/10a)

		N	P	K
5月1日	B B N K 1 7 30kg	5.1	-	5.1
	B M 熔 燐 80kg	-	16.0	-
6月19日	I B 6 0 2 80kg	12.8	8.0	9.6
	S 0 8 2 80kg	8.0	14.4	9.6
合 計		25.9	38.4	24.3
バーク堆肥 3t				

#### 4 平成18年度 時期別収量・降水量・平均気温



## 5 総収量と規格別割合

項目	品種	グリーンフット		HLA-7	
		慣行区	2年間立茎利用区	慣行区	2年間立茎利用区
総収量(kg/10a)		<b>392 (100%)</b>	<b>420 (100%)</b>	<b>743 (100%)</b>	<b>585 (100%)</b>
規格別割合 kg/10a (%)	2L (33.0g以上)	65 (16.6%)	82 (19.5%)	243 (32.8%)	203 (34.7%)
	L (20.0~32.9g)	143 (36.5%)	135 (32.2%)	331 (44.6%)	187 (32.0%)
	M (13.0~19.9g)	62 (15.8%)	83 (19.7%)	85 (11.4%)	69 (11.8%)
	S (8.0~12.9g)	45 (11.5%)	46 (11.0%)	13 (1.7%)	25 (4.2%)
	2S (6.0~7.9g)	9 (2.3%)	15 (3.6%)	1 (0.1%)	12 (2.1%)
	外品	68 (17.3%)	59 (14.0%)	70 (9.4%)	89 (15.2%)

## 6 過去収量との比較

(1) 慣行区 (kg/10a)

		春芽	備考	
グリーンフット	15年	289	収穫日	
	16年	256	15年 5/6~5/26	21日間
	17年	519	16年 5/12~6/8	28日間
	18年	392	17年 5/23~6/24	33日間
HLA-7	15年	292	18年 5/17~6/15	30日間
	16年	460		
	17年	767		
	18年	742		

(2) 2年間立茎区 (kg/10a)

		春芽	移行期	夏芽	計	備考
グリーンフット	15年	23	49	979	1,051	収穫日
	16年	80	254	462	796	15年 5/6~8/31 118日間
	17年	450	-	-	450	16年 5/12~9/7 119日間
	18年	420	-	-	420	17年 5/23~6/24 33日間
HLA-7	15年	48	208	792	1,048	18年 5/17~6/15 30日間
	16年	152	256	851	1,259	
	17年	630	-	-	630	
	18年	585	-	-	585	

## 7 防除歴

殺虫剤	8月7日	アディオオン乳剤	2,000倍
	9月8日	アディオオン乳剤	2,000倍
殺菌剤	8月7日	ダコニールエース	1,500倍
	9月8日	フロンスайд水和剤	1,000倍

## 8 平成17年までの管理概要

### (1)平成14年《定植年の管理》

セル成型トレーに2月7日播種、育苗、12cmポリ鉢に鉢上げし、100日(大苗)育苗、6月1日に定植した。

倒伏防止は直管パイプ、フラワーネットなどで行い翌年の収穫に備えた。

### (2)平成15年《定植2年目の収穫と管理》

収穫は5月6日～8月31日まで118日間、収量はグリーンフット 1,051kg、HLA-7 1,041kg、施肥管理は道診断基準により、バーク堆肥3,000kg、N29.6、P8.2、K15.2(kg/10a)を施用、倒伏防止は前年同様に行った。

### (3)平成16年《定植3年目の収穫と管理》

収穫は5月12日～9月7日の119日間、収量はグリーンフット 796kg、HLA-7 1,260kgと高収量ではあったものの、グリーンフットの収量が前年に比べ減収となった。肥培管理は、バーク堆肥 3,000kg、N30.0、P7.7、K9.2(kg/10a)を施用した。倒伏防止は前年収穫終了後、台風による倒伏がみられたので、防止強化のためエクセル線を使用することとした。

### (4)平成17年《定植4年目の収穫と管理》

収穫は5月23日～6月24日の33日間、2年間立茎後の収量はグリーンフット 450kg、HLA-7 630kgとなった。肥培管理はバーク堆肥 3,000kg、N23.6、P13.8、K18.4(kg/10a)を施用した。倒伏防止は前年と同様にエクセル線を使用し行った。

## 9 平成18年の試験結果

### (1)時期別収量・降水量・平均気温

収穫は5月17日～6月15日の30日間行った。HLA-7の慣行区が他の区にくらべ最初の一週間グリーンフットより収量が高いのは、品種特性が出たためと考えられる。

### (2)総収量と規格別割合

グリーンフットは慣行区392kg、2年間立茎利用区が420kgで7.1%の増収となった。HLA-7は慣行区743kg、2年間立茎利用区では585kgで21.2%の減収であった。

規格別割合で慣行区と2年間立茎利用区ともに、グリーンフットはLサイズが中心で、HLA-7は2LサイズとLサイズが中心となった。外品率は慣行区のHLA-7で9.4%と少なく、最も多かったのが慣行区のグリーンフットで17.3%となった。

### (3)過去収量との比較

17年度との比較で、18年度の収量は慣行区のグリーンフットで10a当たり128kg減収、HLA-7も25kg減収となった。2年間立茎利用区もグリーンフットは10a当たり30kg、HLA-7は45kgの減収となった。

### (4)考察

平成18年度は17年度よりも全試験区が減収となった。天候の関係はあったものの、管理技術が向上すれば収量の減少を最小限にできると期待し、今後更に内容を検討し次年度も継続したい。